

地質調査業について思うこと

五十嵐 勝



地質調査業に従事している技術者の大半は理学部卒であり、土木技術者の数は、極めて少ないのが現状であろう。私は故宮川教授の教室にいたこともあり、地質調査業の会社に籍をおいて、地質屋さんとペアーを組んで調査を遂行している。その中で得られた浅い経験を基に地質調査の考え方について書かして頂くことにする。

地質調査の目的は対象構造部の地盤条件を明らかにし、設計施工を合理的、かつ経済的に進めるための基礎資料を得ることである。したがって (1)正しい地質学的解釈がなされている。(2)土木工事に関連して役立つ情報を提供することになる。すなわち第1の点は地質学的考察のとりこまれた断面図であるかどうかである。たとえばボーリング柱状図で単に似た地層を描きつないだけの断面図・地表踏査・空中写真の反映されていない断面図等の基本的な誤りをおかしている場合には後の地盤条件のモデルは「マンガ」にすぎないことになる。この点については地質調査業にたずさわる者は不明な点を報告書に明記し、また土木技術者も基本的な地

質学の修得がなければ十分な理解は望めないであろう。第二の点は調査業にたずさわる者の弱点となっている。すなわち調査業者は直接施工にたずさわる機会が少ないことから、土木技術の本質と土木施工の実態について十分な理解がなされていない場合が多いようである。まして理学部卒の若い技術者はおさらである。したがって調査目的にかなう必須条件を満足する報告書とするためには、土木技術者は進んで土木技術に関する問題点を地質調査業者に提起し、議論すべきであろう。この議論があってはじめて調査業者の土木工学的技術の進歩があり、また土木技術者の地質学的技術も高まるものと思われる。

最後に地質コンサルタントは技術力が商品であることから、技術的アドバイスについては、正当な経済的評価がなされるべきであり、調査項目に単価・経費を乗ずる積算価格では先の(1)の条件程度の報告書となってもいたしかたないことであろう。

(5期 ⅩⅩダイヤコンサルタント勤務)
技術士(建設部門土質基礎)

お知らせ — 同窓会費納入のお願い —

昭和59年度の同窓会費(年会費2千円)を、同封の振込み用紙を利用して納入願います。なお、通信欄に会員諸氏の近況を一筆お願いいたします。

事務局からのお知らせ

理事会だより

昭和59年3月10日、本年第4回理事会が開かれ昭和58年度収支決算が次のように承認された。

<収入>	会費	416,000円
	返金(故山下氏)	30,000
	繰越金	473,629
	計	919,629円

<支出>	理事会足代	68,640円
	交流会費	47,600
	通信費	42,930
	慶弔費	45,000
	同窓会だより印刷費	35,000
	バイト	22,500
	雑費	4,910
	計	266,580円

残金 653,049円

残金のうち400,000円を定期貯金にした。

昭和59年度収支予算案を次のように決定した。

<収入>	繰越金	253,049円
	会費	300,000
	計	553,049円

<支出>	故稼農先生遺稿集への寄付	100,000円
	理事会費	80,000
	交流会	50,000
	通信費	80,000
	慶弔費	50,000
	同窓会だより	100,000
	予備費	50,000
	雑費	43,049
	計	553,049円

同窓会活動の活発化と若い卒業生の参加を促すため、理事会に小委員会を設けることとなった。

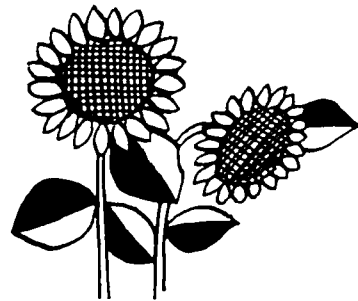
1. 同窓会だより委員会(柴田理事)

2. 交流会委員会(田口・及川・金森理事)
3. 事業計画委員会(淡路・対馬・石塚・若菜・井上理事)

4. 名簿作製委員会 来年度決定する

今後の事業として、同窓会支部への補助を活発に行うこととし、支部の発足を呼びかけることにした。

会費納入者数は会員の約30%となっています。会費の納入を呼びかけると同時に、同窓会事業への希望を事務局までお知らせ下さい。



ヨーロッパからのたより

望 月 誠（現ベルギー在）

同窓会諸兄、益々御健勝・御活躍のこととお慶び申し上げます。小生が同会報に執下を依頼されたのは2年程前、小生がバクダットの下水道工事に携っていた頃と思います。当時は仕事が猛烈に忙がしく、下を執っても仕事の愚痴ばかりで途中で自分の心の貧しさがわかり、中断するのが常でした。その後、長年の念願であったオランダのデルフトにあるIHEで水文学を学び、そこを昨年9月卒業いたしました。この学校がまた猛烈にしごくこと、しごくこと。毎日夜中の2時過ぎまで勉強しなければいけない状態で、自分の能力の無さに嫌悪感を抱えたものでした。しかし、欧米の一流教授らから水文学を教わることなど日本では無理ですから、成績はともかく卒業できたことに満足しています。その後、以前より井戸掘りをやってみたいと思っていたので、ITCに入学し、水文地質学を勉強しております。この学校は航空写真及びリモートセンシング主体で地球科学、地球計画など応用分野も守備範囲にしています。

さてこの水文地質ですが、写真から地質構造と地質を判断して水のありそうな場所を捜すもので、なかなか目のつかれる仕事です。地質を判定するのは職人的な芸ですから、コンピューターで処理するのは当分の間できないでしょう。ここで教わるうちに小生の目もかなり良くなって地質判定の確度も高くなって来ました。さて4月よりスペインの田舎のとある地方の写真を判読して地図を作る作業にとりかかります。その後現場に行って現地踏査と物探をあわせて行ない、地図の改正と充実をはかります。そしてレポートを書き終えれば卒業です。その後、ベルギーのブリュッセルにあるフリーユニバシティに進学予定です。最近大学より大学院修士課程2年次編入を認める通知が来ました。大学卒業後13年目にして修士になる目度立ち、やっと帰国の予定も立ちました。来年の初夏には

皆様にお目にかかれることと思います。『少年老いやすく、学成り難し』とはよく言ったもので、実感いたしました。

小生、今でもくやしく思い出されるのは、秋田高専を辞めて青年海外協力隊に参加しなければならなかったことです。当初現職のまま参加する希望でしたが、文部省の判断は教育関係の隊員に限り認めるが、現業の隊員は適用外であるということでした。今でもこの見解のままでしょうが、公務員が業界で働くことは違法ですし、国家事業に参加もできないとすると、土木の教師には現場で自己の技術を磨くチャンスなどないということでした。土木は実用の学問ですが、このままですと理論しかわからない土木教師ばかりになってしまうでしょう。従って大学を卒業して現場に出てもなにも出来ない卒業生が多いのは当然といわなければなりません。欧米では大学教師がコンサルタントとして常に現場の問題にあたっているため、学校でのエクササイズは彼らが手がけた仕事が出て来ます。IHEはさまざまな水文データ・地質データ・



地図があたえられ、多面的な面からプロジェクトを検討し、設計することが課題です。こちらの大学では一年生からこういった課題が与えられますので、卒業時には実践に強いのはあたり前です。問題にあたってはどの理論を適用して解くか知っていますし、現場調査法はどの方法を組み合わせるかなど、あざやかなものです。

小生、バクダットでは苦い経験をしました。事前調査不足から、採用した工法が不適で工事がストップし、対策を講じようにも必要機器・物資なく復旧に手間取り、大幅な工期延長になったり、ヒューム管が不良品で製造中止となりあげくのはては粉飾決算をして部長の首がとんだりしました。これはみんな一流会社の一流大学を卒業した土木屋のやったことです。英国のコンサルタントからは、我々はエンジニアと呼んでもらえず、テクニシャンでした。工事長クラスでないとエンジニアとして扱ってもらえませんでした。しかし、ヨーロッパの最近の不況は深刻で、大学を卒業しても職が全然ありません。求人は経験者を対象にしたものばかりです。

この点、日本の学生の方がうらやましい限りです。

ともかく小生、帰国してからは土木教師の現場研修及びコンサルティングを容易にすべく大いに論陣をはり、文部省官僚の耳に入れなければならないと思っております。御賛成の諸兄の御協力を求めてやみません。最後に皆様方の御活躍を心からお祈りいたします。

(4 期 生)

注) IHE: International Institute
for Hydraulic and Environmental Engineering, Delft
The Netherlands.

ITC: International Institute
for Aerial Survey and Earth
Sciences, Enschede The
Netherlands.

※この6月、徳田・加賀谷両先生が訪欧の折、パリにて望月氏と再会したそうです。元気で頑張っておられるとのことでした。



I H E 卒業式で卒業証書を手にした望月氏

第5回交流会

昭和59年2月25日(土)恒例の土木工学科同窓会の第5回交流会が大学会館2階会議室で4年生約30名が出席して開催された。同窓会からは、佐藤副会長・柴田・田口理事・及川・長谷部監事が出席した。なごやかな懇談の後に散会した。毎年同時期に予定されております。特に連絡はいたしません。が会員の皆様の出席をお願いいたします。



昭和58年度 卒業生就職先

昭和58年度卒業生の就職先が次のように決定しました。今頃は各職場でがんばっていることと思います。先輩・後輩の連絡をとりつつ、お互い体に気をつけてがんばって下さい。

氏名	内定先
石橋 憲二	川田工業(株)
大場 孝義	日特建設(株)
岡田 武久	(株)鴻池組
岡部 武彦	建設省東北地建
加藤 博	鈴中工業(株)
菊田 泰久	同和エンジニアリング(株)
源田 博則	アイサワ工業(株)
佐直 信次	宮地建設工業(株)
佐藤 正尚	(株)秋田情報センター
志田 正実	村本建設(株)
鈴木 勝徳	白河市役所
滝沢 厚	八重樫建設(株)
尾保 祐彦	秋田大学大学院
西崎 隆博	日本データサービス(株)
林 和良	福島市役所
林 達夫	秋田大学大学院
古館 和好	盛岡市役所
星 尚克	秋田大学大学院
宮腰 工	(株)小野組
村田 嘉宏	(株)創研コンサルタント
山田 正貴	五洋建設(株)
和田 写	福島県
鈴木 一生	秋田大学大学院
石村 康博	石村組
仙波 昌克	安藤建設(株)
高橋 聡	常盤工業(株)
林 秀顕	日本グラウト工業(株)
宮田 孝次	名古屋市消防局
進藤 浩徳	山岡工業(株)
本木 正直	岩手県
佐藤 隆志	大日本コンサルタント(株)
平田 昌樹	青森県

第3回同窓会総会

昭和58年11月5日(土) 5:30 PM～
秋田市農協会館

昨年11月5日、第3回同窓会総会が秋田市農協会館で全国各地から50余名の会員諸氏が出席して開催されました。会長あいさつ・議長選出の後、今は亡き稼農先生・宇佐美さん・山下さんに黙とうをささげました。それから役員改選を行ない、会長・副会長の留任が決定されました。また同窓会のあり方、今後の発展と充実について審議した後、先生方をまじえて懇親会にはいりました。久しぶりの友や、諸先生方に会い、話もはずみ、夜のふけるのも忘れる盛会でした。次会も多数の参加を期待いたします。

消 息

道路工学講座 及川先生、4月より講師になりました。おめでとうございます。

石井千万太郎助教助
北海道大学土木工学科へ内地留学

川上 洵助教助
Liege大学(Belgium)へ留学
住所: Mr. KAWAKAMI.
C/O Professeur
K. GAMSKI
Institute du Génie
Civil Université de Liège
6, Quai Banning, B-400
LIEGE (Belgique)

秋田高専助教 庄谷征美先生(S45～
S49秋大在職)、4月から八戸工業大学へ御栄
転。なお3月に工学博士号を取得。おめでとう
ございます。

編 集 後 記

早いもので我土木工学科も来年、創立20周年を迎えようとしております。多くの先輩・後輩が今やそれぞれの職場の第一線で活躍している様子を聞くにつけ、諸先生方の喜びもひとしおと思えます。同窓会でも20周年を記念して名簿の発行やその他の行事を検討中ですので、皆様方からのアイデアを募集しております。また同窓生も多くなり、各地区で集まる機会もあるかと思えます。支部活動をしている地区、これから計画のある場合は是非事務局までお知らせ下さい。暑さきびしき折、同窓会員諸氏の御健勝をお祈りいたします。

(柴田 記)

発行所 〒010 秋田市手形学園町1-1
秋田大学釜山学部土木工学科同窓会
TEL 0188(33) 5261
振替 秋田 4736

発行人 小林 富美雄
編集委員 柴田 恒夫
印刷所 鶴田印刷株式会社

